

活動状況報告書（1月分）

学生留学コース 高橋 茉倫

1月は本格的にレインコーバーが到来したと感じさせるほど、雨の日が続きました。天気の良い日は気温がぐっと下がりますが、非常に貴重なので、特別な用事がない日でも外出したくなります。また、今年は少ないと言われていましたが、先日、降雪による交通障害の影響で、数日間の授業がオンラインに切り替えられました。

今月からはTESLの授業が始まりました。TESLはTeaching English as a Second Language（第二言語としての英語教育）という英語を母国語としない人々に英語を教えるための教育アプローチを指します。学んだ中で特に印象的だったのは、第一言語のLanguage Acquisitionと第二言語のLanguage Learningの違いです。第一言語は生まれた瞬間から、無意識的にその言語を耳にし、周囲の様々な音声を通して習得していきます。学習の動機もその言語でコミュニケーションをするためという必要性から生じます。一方、第二言語学習は、第一言語をある程度身に付けた後に始めることとなります。そのため、第一言語に比べて学習開始時期が遅れ、第一言語の規則や形などが第二言語学習に影響を与えやすくなります。また、コミュニケーションにおいて必要不可欠ではないため、学習の動機に関しては個人差がありますが、高いとは限りません。このように、第一言語習得と第二言語学習は「言語を学ぶ」という点では変わりありませんが特徴は大きく異なります。第一言語、つまり母国語として英語を学ぶ人と第二言語として英語を学ぶ人とは、当然、取るべき教育アプローチは異なるということをより強く実感しました。その他にも、学習者の学習スタイルや様々な授業のアプローチ方法を学び、学習者の英語学習へのやる気や興味関心を引き出すために、教師ができることややらなければならないことはたくさんあると感じました。翌月から実際に生徒の方に英語の授業をする機会があるので、実践を通してより深く学んでいきたいと思えます。

